



12月議会の流れ

11月30日

開会·質疑·採決

議案の提案理由の説 明を受け、議員によ る質疑を実施。 12月9日

委員会^付託

議案を各常任 委員会へ付託 12月11.14.18日

各常任委員会

各常任委員会にて 議案の審査 12月18日

討論·採決·閉会

各委員会からの審査結果 報告の後、討論・採決 (結果はP.3の議決結果参照)



12月7.8.9日 個人質問

13名の議員が質問を行い、市政を質した。

▶▶ 本会議・委員会のライブ中継、過去の録画映像の視聴はこちら

ライブ中継・録画映像選択画面

http://www.city.matsubara.lg.jp/shisei/gikai/7368.html ※動画の内容は公式記録ではありません





識案審議

こんなことが決まりました

令和2年度松原市一般会計補正予算(第9号·10号)

令和2年度予算に2億7,353万円を追加

上記の金額を追加するため、令和2年度予算は 総額594億8.627万4.000円になります

2億7,353万円で実施される主な事業

- ○学校給食業務事業 8,977万7,000円 3学期の学校給食無償化に伴う補助金の補正
- ○児童手当等給付事業 6,000万円 児童手当に係る扶助費の追加
- ○後期高齢者医療広域連合事業 1,445万3,000円 後期高齢者医療療養給付費負担金の追加
- ○ふるさと応援感謝事業 1,460万円 ふるさと納税返礼品の送付に要する経費等の追加
- ○ひとり親世帯臨時特別給付金支給事業 9,470万円 ひとり親世帯に対する臨時特別給付金(再支給分)の追加

こんな議論がありました!

松原市企業立地促進条例の一部を改正する条例制定について

企業立地促進制度の改正

市内への企業誘致と市民雇用を推進するための改正です (主な改正点の1~3は、令和3年1月1日施行。4は令和4年1月1日から施行)

【主な改正点】

- 1. 立地促進奨励金の指定事業者の要件の拡大 指定事業者の要件として「面積が1,500㎡以上の土地を新たに取得または賃借し、当該土地上に常時3名以上の従業員を 置く事業所として延べ床面積が200㎡以上の家屋を新築事業者」を追加
- 2. 雇用促進奨励金の対象範囲の拡大 「事業開始後2年を経過した日において6箇月以上経過して新規に市民を雇用している場合」から「事業開始後1年を経過した 日及び2年を経過した日において事業開始日の5箇月前の日以降6箇月以上継続して新規に市民を雇用した実績がある場合に拡大
- 3. 雇用促進奨励金の対象となる非正規従業員の要件の緩和 労働時間が正規雇用従業員の「2/3以上」の非正規雇用従業員を「1/2以上」(障害者については「1/3以上」)に緩和
- 4. 立地促進奨励金及び土地活用奨励金の額及び交付期間の改正 奨励金の額を土地等の固定資産税等の「1/2」から「1/3」へ、また交付期間を「5年」から「3年」に改正

問

- ・改正に当たっては目標が必要だと思うが成果目標はあるのか
- ・補助率を下げることで制度の魅力が低下するのではないか
- ・特定の企業を念頭に置いた制度改正ではないのか

竺

- ・明確な数値目標はないが、指定事業者を増やしていきたい
- ・奨励金の交付額及び期間を見直すことにより持続可能な制度となり、この制度の プラス面を維持できると考える
- ・特定の事業者を念頭に置いた制度改正ではなくより多くの市外事業者を市内へ 誘致し市民雇用の創出を期待するもの

問合せ先 議会事務局 TEL072-334-1550(代) 議論の様子はこちらから ▶▶▶



11月30日

総務建設

諮問1件、議会議案5件について審査しました。12 月定例会では、令和2年度松原市一般会計補正予会 期 令和2年 11 月 30 日 ~ 12 月 18 日

19

国・府に意見書を提出しました

地方自治法第99条の規定に基づき、12月定例会では5件の意見書を議決し、令和2年12月22日に国と衆・参議院議長及び大阪府に提出しました。

新型コロナウイルスの感染予防の影響等による少人数学級の実現を求める意見書

大阪府に対し新型コロナウイルスの感染予防の影響等による少人数学級の実現に向け、教職員確保のための予算の拡充を求める意見書

住まいと暮らしの安心を確保する居住支援の強化を求める意見書

不妊治療への保険適用の拡大を求める意見書

詳細はホームページでご確認ください 「意見書・決議の議決状況」▶▶▶



犯罪被害者支援の充実を求める意見書

^{令和2年第4回定例会} 議決結果一覧																		
会派·議員名		公明党			自由民主党				日本共産党				まつばら 未来		大阪 維新の会		無所属	
議案等	依田眞美子	河内徹	中尾 良作	三重松清子	中田 靖人	篠本 雄嗣	紀田崇	池内 秀仁	植松 栄次	野口真知子	福嶋光広	森田 夏江	河本晋一	松井 育人	鍋谷悟	平野 良子	田中厚志	結果
令和2年度松原市一般会計補正予算(第9号)	0		0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
つれて 千度位派 中月 20 日本	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市事務分掌条例の一部を改正する条例制定について	0	Ö	0	Ö	Ō	Ö	0	_	0	Ö	0	0	0	Ö	Ö	Ö	0	可決
松原市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
市長の退職手当の特例に関する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市立の学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に 関する条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市企業立地促進条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市火災予防条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市文化会館等に係る指定管理者の指定について	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例 制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
松原市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正 する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
令和2年度松原市一般会計補正予算(第10号)	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
若林財産区管理委員の選任について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	同意
人権擁護委員の候補者の推薦について	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	同意
新型コロナウイルスの感染予防の影響等による少人数学級の実現を求め る意見書	0	0	0	0	0	0	0	ı	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
大阪府に対し新型コロナウイルスの感染予防の影響等による少人数学級 の実現に向け、教職員確保のための予算の拡充を求める意見書	0	0	0	0	0	0	0	ı	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
住まいと暮らしの安心を確保する居住支援の強化を求める意見書	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
<u>住まいと暮らしの女心を確休する店住文法の強化を水める息見書</u> 不妊治療への保険適用の拡大を求める意見書	0		0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
犯罪被害者支援の充実を求める意見書	0	0	0	0	0	0	0	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	可決
シャード・ローイングインの人でいって、中心シロ目	\cup	$\overline{}$	\cup	\cup	$\overline{}$	\cup)				$\overline{}$	$\overline{}$)	$\overline{)}$	0	~1/^

議長(池内秀仁・自由民主党)は通常採決には加わりません。賛否同数の時のみ可否を決定します。

ナ

関

連

の

特

|題の解決策や政策を提案するものです。 |人質問とは、 人質問を行いました。その概要を掲載いたします。 それぞれの議員が市民生活に関わる課題について市の考えを問うたり問題提起したり、 令和2年12 月定例会では3日間にわたり、 13 人の議員が

市 コロナ感染症対策 独自に強化を



日本共産党





















の 民 談 親 の 今 窓 森田 切 後 な 様が安心 も を 取 引き 設 り組 続 \cup み き、 市 て 民

い化間

計

通 書

9 館

に

な 屋

つ

て

の

推

進

活

動

に た

を

入

n

図

の

上

な が

١J 設

理 風

 \oplus

は

は 寝 問

津)

C

も

阪

豊

ф

相

健所や府と連 てな 府 対 実 本 市 象 が ١J 実 C は の 施 の 保 実 健 携して、 今 後 施 行 所 は 政 を も 検 設 も 答 を لح 対 つ 守 る 雇用 注 心 を 視 玉 ф 坟 行っていく。 し、 ゃ ے 川 策の強化 府 権利・くら 零 スピー 細業者 などの を ۴ 動 支 感 援 向

C С 関

も R

も じ

介 ま Ш 大

施 <泉 府

員

つ

る

医

療

社

会

的

検 設 い 大 下

查 職

を

松 \mathcal{O}

原 Ρ 機

問 市

い

合

わせできるよう、

よ安

全

面

な 影

わ 響

れ

な ょ

い

車

場

40

台

保 は

うに

するため。 が損

書棚

が

空つ

ぽ

の

لے

L

て

33

万

円 分

C 確 答

の

に

0

桜

珈琲に応

分の

負

担

を

!!

連

携

している

置

阪 の

原 に加 い相保大査 学 市 実 配 いろ研究してい 校 て 施 を 府 下 も を 活 20 川 用 10 人 し てい して市 市 の が習熟 加 校 配 17 る 人、 独 を 松 自 度 の も U 問 た災災 に 作 援していく。 進 避 戍 感 め 難 は 害 染 る 地 所 備 症 域 マニュア 蓄 対 住 費 策 民 を を ط 増 考 ル ط も 慮 え、

答

を

第一に

61

るため、

安

全は 置

確 れ

いもの

子どもが ゴムもなく、

持つに

は

高 り 用

通 問 所

学路の安全対策は?

歩道が設

さ

だ。

ろ 談

を

最

善方法

を

持

って

状況を

見

極

80

し答

指定管理

者と

協

議

災

害

用

 \mathcal{O}

公

用

駐

車

場場

だ

が、 時

ょ

り

迅

充実を図ってい

<

い表

紙 ろが

が見えない

本 り、

も

多

U

た 公用

理

Ш

は

?

以 上

欠席している不登

校

に努めている。

学 校

C

に

車 る 貸

の が 料

駐

車

場

潰 80

改善すべきだ。

 \overline{c} 問

随

所

に

あ

背

安

す

ぎ

その

をた

1

学

期

末現

在、

30

 \Box

 \wedge

の

配

慮に関

す

る

啓 人

発 権 ス 1 の な 偏

活

用

フ

I

1 ホ

問

階

段

の

角

に

衝

前

に

整備したため

中央小

学校児

童

出動

できるよう市

手 緩

す

<

支 を

きでは 人 受 用 ф 数 学 る 級 \subset 安 ط 17) 舵 が \cup ablaできる を 授業 切 る を لح 少 活 ル ニングや 作成 感 見 に 染 取組 ノ里駅エレベ 運 症 営マニュ 対 んでい 心 \mathcal{O} ゾ る。 ١ ア ١

て、 問学を以 を 始 加 め 級 に て お の 3 の お り、 配 実 い 年 7 置 現 度 の 員 の に の 運 検 会 35 つ 用 人 \Box 討 い る。 7 近 真 夕 \mathcal{O} の ١ 改 鉄 安 · 心 設置にあわ バリアフリ 安 土 全 入 れ 対 木 せ駅周 事 策 を ١ 強 務 充 ۲ 化 所 実

辺

問安て

全を確保し

てい 索

< 払

き。 滞 問

図書の

検

機

がなく

駐

場

及

駐

渋び

の輪

も常に

注

を

い

の

対

策

を

考

え

る

ながら、子ども

の

支援

に

問

情

報

Ŧ

ラ

ル

教

育

に

び

があった。 々な子ども

様 し

た

ち

の

学

た

学

漝

を

て

お

し

てい

る。 在

今 後

にお く運

現 安全面 改善すべき

問題

な

営 考

できている。

長尾

街

道の

交

通

なりパソコンの操作がで

て

きない高

齢者は困

って

61

生 の

な に 車

< ょ

な

り、

長

整備

り

滞

街

の 少

渋滞

に

特

な

る。

どう考える。 使い方

の

ポ

影

響 道 が

は

な 交通

いと

考える

> ŧ 今 に進めていく。 関 係 関

携

はどうなっている

か

度

ط

認識している

ナ

1

の

教

材

を

作

戍

ф

C

独むルえ

分

ے

の

額

の

3分の

1

いを

してお

今 サ

後

に ١

お 1

条 例

改

正で固

定

産

税

はどれだけ安く?

ても

使える新図書館に 安心して快適に





































































ス

感

差

別 報

に

つな

がら され

メッ

セ

١

ジ

報

紙

市

情

に

惑

わ

ラ 1 シャ やス 不 登 材活用につい ク ル 校 ゃ ワー 児童 ス ١ ナ クー ル カ 禍 生 7 カウ ١ 徒 に ル 等 の お ソ ン 状 の け ١ セ る 人 況 発 い か Δ ブ ツ ょ 信 ゃ な クを や広 う、

ベ 渋 保 $\overline{}$ の 役 速 車 関係機 限活用 スクー 析の結 ラー カ l 議を実施し、 の分析を行 学校合計で \mathcal{O} 児童・生徒が、 · 等 の やスクー | 関との 果、 ル 専門人材 ソーシャ 多 面 く 41 名 で 必 () 連 要 ル さらに、 ケース会 携 な 的 カウンセ に状 を最 も 場 ル 小 あ , ワ 1 · 中 進 合 る。 分 況 \Diamond は 大

スを

考 新 る

える 型□□

教

材

を

利

り用

庁

の あ

ナ

ウィ

ル 育 教

材

い

は

大 +

阪 字

衐

教 の つ な

いての工夫

は。

 \Box

本赤

社

権教育

の の

進 取

め り

方 組

にみ

に 尾 発 場 つい 染症に 当たっている。 新型コロナウイ τ 係 る Û の ル ケ ァ ス E 感

資 いては まえ 別 的 な 感 新 啓 型 染 中 傷 も に 偏 充 妏 ウ 見 す に る を ル つ 131 差 る 必 教る 自

つい れ 台 時 る 媏 代 育 7 にな ۲ 機 が を 末 G から 会 -あ つ が 情 つ G る。 て、 格 報 か 情 Α り 報 段 機 ス 現 モラ に 取 器 1 ク 在 増 組 に 人丨

触

1 ル

7

た判断をすべき

報

について













システムは 基幹系シ ス テ の 減額 **しについて** 構改 革(D X の 推

行うべ ケ 先 い 1 見 て - スを 性 は コスト を 臓 想 も 部 つって様 定 面 \cup 慎 改 行 も 重 々 含 に ス $\overline{}$ 携 D ' の 変 キルの構築 Xは業務 が 必 民 革、 要 間 だ 企 業等 全て が、 た そ な に ٢ の \mathcal{O} 組お 見 連 織 しし

ボ答

問

急

通 1 1

報

な

った

高齢

問高

2 年 前

ょ

り IJ

手

厚

齡

ヮ

改問になめつ事基 独 か、その優位は独クラウドでで 性 更 答解 ば ?

導入する。 ラウドへの移行も見 安答いと 高 全 事 す る 性 業 将 庁システ ゃ 来 事業者 費 的 用 定 に自 対 方 Δ 法 効 治 に 選 体果がだいべ 定方 に 据 え つ \overline{C} 民 あたのえく 推進 人材 間 ると ablaの 連 携 **、** 企 い は市 一 業 、 る。 C 考える。 の 木 だ きる手 専 難 協 け 力が 門民 市 で て 民 あ 性 間 進 ع 必 企 法 今 を る 80 を 協 後 要 持 業 とて 働 C لے 検 考 つ

を問の

問 コストについてる公募型プロポーザルにより審査を行い選定をは つ材いセ 公 共部門 センター τ このシル 委 Ħ バ ¥ ı 棠 に人

進来答課

高輸

の

方

題等

は。

展し、

慣

が多く、

討

する。

システム 更 係 問 整 配 分金、 備 すべきで 業 務 就 内 業 容 環に 境 応 をじ 再て

較し千額る答は 用 8 る 5, な ٢ シ り、 \cup て、 5 3 ス 9 年 3 万 テ 現 1 5 新 7 間 ム在 千 لے 使 万 C 年に 円 1 比 用 1 総 境 しるい の た ゃ 整 魅め 喜 就 備 力 に び 業 を を に の 配 行 分金をいる よる あ ってい る 就 生 高 き < 増 業 額めが 環

問を

庁

的

なシステ

来

度

生きた英

語 さ

を

期に行って

い

ご 学 ぶ

機 年

会が実現する

作 や

戍

きたい

月

中 は

に

は

配

属

9

リーフレ

ツ

 $\overline{}$ の 問

図るための手立

は 化

J

蚧

の

方にも分か

現 は

状

ے Ε

ン 来 年 度

に グ 向 ラ

け ム

問を

手

続

きの

効 て等

率

を

来て

な

い

行う必

が喜べる施設を 高齢者や子ども

















だ きた 全庁 進めて い 的 が なー い か C が か

化

図書 の

民

間

の T R C に

メリットはアナログ回線ターにつながること。デ リット・デメリット 使った機器の導入は。 みの提供となること。 タン一つで相 見守りパペロ(A) メリットは緊急時に 対効果等も含 セ は 具体的 問 もの増加を目指す。 ンでつなぎ、新図書館 答 数 託したことでの違 利用と読書の好き が 増 学校との 試 おお計画 えたことなど。 験 館 的 時 にオンラ 間 は で開 連 図書館の 携 C 館 は 1 の \Box

て研究していきた () 学校教育

族の方のお気づきのおくやみコーナーおくやみコーナーめて研究していきたサー対応の折り の方のお気づきの 要があること。 ない手続 人 高 蚧 折、 点 C 化 遺 が の なった 防接種助成の案内は での案内を徹底する。 答 護者との懇談時に、 正 式 受 験 特に インフルエンザ 場合の対応 な 当 受験生 通知 日に陽 は に は 性 ま は だ ط 予 頭 保

誰も取り残されな



自由民主党



で 適 の 全 な あ 切 ス て い る な キ の 現 れ に 達 て も 支 い 必 援 な り 現 と の て セ い ことと も 所 市 以 中 接 核 や い 切 に る。実 苦 す る や 相 期 る。 1 る る 施 療 な か 内 上 支 10 ン 市では センタ る。 ح ル 支 思 も に 要 設 談 発 関 育 声 る 万 EE ٢ 状 h タ となる な 係 う 曳 援 C 達 に 人 支 向 が が だ を に 共 ١ < 援 う 規 野 共 状 に、 上 機 が 努 は 支 あ 寄 お 特 だけ の 規 同 1 援 巻 が 市 況 が を関 る 届 け 期 せ が が 児 定 に 悲 運 出訪が はの い 制 10 域 abla発 5 さ 考え 要かとら C 生市 来問必じ療市て度る支要め育内いの いる 1 田営 万 童 見 れん に 増 発 かな 院しま内 1 $\overline{}$ \mathcal{O} ずの 加 設置できるが、悲田院はカしている。制度的にはなサービスにつなぐよう努 テージに応じなげることが ついて も い の る 年 い 、た 支 支 現 慮するところでも み上げている。 昭和55年からこの ょ \subset ょ 本 が なが 材の育成については た り いの り 援 市 1 T セ して、ノウハウを 専 の る \mathcal{O} 保 発 女 性 は 0 セ あ ン だ ٥. ك - 育需 は 人 材 保 門 達 課 *ا*ل 35 0 ン る う 題 護 同 応じて、 \mathcal{O} に の 名 名 夕 1 な て が 事 者 課 時 要 社 ١ の \mathcal{O} ١J 家 成と発 C 題 に が 会 <u>~</u> 業 が 定 ところ、 る が 伸 進 じ じ に 近 に 近 き 所就をに労抱 が 示 分 庭 $\overline{}$ 事 が か 枠 発 子 ど 開 業 の な 定 色 苦 積 を _々スいつに え を 員 達 曳 さま

支援拡充について

給

の













償 化 に つ る作

がき償以 るコ? だ 化降会 も派 をっと ナ 続学し け校て が い食年 0 < 0.4住 援 支時い出 さ策働 援 住 住れとく 金宅とり 宅 るし方 事 て の 業 、家 に ا ك ンて ン等本計つ支いて い払る喜

立

ط

き る

た \subset 害

がた業努命

ちわまを

づいた

を

徹 理

底 abla

とル

での

衛順衛

止かこ 源3いをえ 会め非と広が億で応 てかがく か6は援中口 い を必市か干 あし きた し要民 8 るた つ での 百がい子影 い。か あ声そ万 、と育響 りりをの円年いてを 受 間たの間う世踏 とがやイ答後間市だねをにのす額定し払的定支は者臨でい **の**い好給2ある っに、 資 て意付千つ事 住 上 abla産 宅 税 い *海* 7 2 で 7 5 、 万 8 に る \mathcal{O} あ万 課 評 の円30計市 価 、を % っ れ 民 を お 8 2 いお千8申給 相るにをを市へ たむ円人請付当固対支目にのてい

たち後にす致て

づもな様や

うと

 \cup

abla

なに

まぎ

<

り

を

义 す

る る ュ

 \subset \subset

が

C

く市ろ

民

をの

進 命

り

_ 興

貫基

教 本

た支時 1 全 全 効が援住 果、金宅額し 実れ業1補てい どの提払と学 に つ ス今 1 健 感年い康 て つ 度 症 はコ オ の の 1 あ 響口 ク IJ 。 の **方** ナ \overline{C} 今

も大護助じは答は概言い『旅間け是くめ財で思代ま答かべ無月間い学 い要し者臨行 そ感修かと 染学が 不症 が? 対行 用 対につ る 者 をい 額 で子か どら保補講て きの等たし でのキこ ` むル ンろ歴な グを史く しそコ集・中染 こ1約魅止 てよをスしカと いいりSがたのな るた多Nでウあっ °だくSきォるた 食間がし家め答り用間し中の答つに問きま今形ら誘めを

C 考

取 え

り

組

む

 \forall

1

|

フ

オ

、ン

悩ら支題

ま実

ん今教

7

り

組

まちづくり 未来を拓く

らに期間

期井

績 1

つ禍

いに

け

る

安

対

策

に

<お

•

び実政

てか証2

のつ

づ \mathcal{T}

心民つこと期

らり

市に

な声

らし

原てり保

きけ市

決 つ

ア ^松 め か 確

市

き生守生た止民

を

源

の

まが

も企にのいれ検

災街い3澤

かく及の市



() a 対 ナ

け

は宅おの心 る化 ? にけ強を住 す \Box 関 る化 確 る す家に保 ナ る計つす ۲ \mathcal{O} 支のいる 本 影 援支て居 ら市響 の援本住 しにが 取 市支のお長 答押市押問い添 もワ 印の印 き つ 連 1 す現廃 た 行 廃 行 た携ク 政止政い 止 支しな \mathcal{O} 援など、 手に手 取 続っ続 をが 組 にいに 5, 他 お てお 機 い、け し寄 関 て本る てり ط

もいかな課答が活自問上担ま給校給対日日お似ら支題 必用立 限した食に、しにか 支も答組住に援安け期間 し、生 した食にて、のお ー 人 高 か 給 のお加 $\overline{}$ 生 5 万い住無いえー 令 ま 令 に校 る宅 人れ 償 てて 和 和 つ 生 人口化2 10 た 3 2 き世 を学小万子 年 年 1 代 付に「を学っ対ン実期 • 円ど 3 4 万の も しを施か中を 月 月 円 子 、負 。ら学支に3128をど

元るる を 公 援 \mathcal{O} 給 護 営 にし の住経 支 宅 済 援の的 こきと答け問4こ中よ答かきの問進押所手要 で、 T ح 6 そ Ο が 1 手 で押 続 き 印 5 き 押 は るを0の EΠ も廃 0 数 廃 • の止 は

がすそ

約るのお

限

1

円

?

る

は

تلے

れ

<

数

数と本

押

廃 る

ら止手

いで続

印お

をけ

市

に

止 に 向

つを

援を相要

ま者

談

え に る包1 限 つ ら観括ズ □ () てな点的や ろまが かし可押の市 <らて能印取の 速はなを組 ま 手 廃 な り かで続 止 た きき に 取るにる 組とつこ







めを守 しし て守る 育計 る。 に画 後室答い活問就答りが夕問取フの仲答が問る管を管いめの ゴ まつばら もに対す ! りェ活間 と理 づくりや 考 え いや介護予防ないのであり や、 元 希 問 る 'n 者 う。 う。 生 にカ等 $\overline{}$

た一後 い 伴 貫期教で う教い 教計育問小育 う中振 育 画 振 に興 \mathcal{O} 推お 基 進 い本 て計 を 示 小 画 を 通し シルバ シルバ きの居! で 居 き 場 しきバ たが ١ だ。がづく い人 や材 のやセ 取りン

るた 方に 庭 対イ 課 ン す モラル問 題 るタ を 適し 共 切ネ 教 通 なッ 地 理 関ト を 域、 解 進 わ活 \subset 業 組い1 用 開ス問 み ス環配 う。 に た $\overline{\lor}$ 境 分 ついて 取 1を 金 り ト 整 を 備 今 フ は 問 みォすじにンるめ 後 نَ کَ ؞

用立

生

支 就

支

援 労

化 れ か 及 5 び の \Box 学 校 ナ もを 続 催 しし $\overline{}$ 取お

め印管

るのに

略

化

続と

き

省おにる時

いっこ

ていと

で は か

をに各る不

速

止か

点

C

てが押

で即

きを

の

件

1

ナ

1

ے

2

年

11

月

現

在

て

て

1

ゃ

乳

室

に 多

つ

61

り援

対

象

緩

和

て

る

う

組報スお

١

持 住

管民り

寸

取情ビどに夕専

み格をり市化部

`ル門

ると

ょ

う

に

申

請

の ゃ の

ハ す

1 <

۴ な

つ

い

<

7

差

が 受

強め国際交流を!









ナ 不 禍 の は 下 推 C, C は 2 28 1 0 \supset ナ

関

償

が**の**

す

 \Box

 \mathcal{O} 食

は る 安 も く安 も 9 を あ 同 外 越本抱 玉 り 様 え市い 係 令 答籍人人和問 和 住減口2 2 平民少と年平 年 成の 件 しで11成 30增 て 11 ては月30 減は あ 月 年 `の年 11 4 1 住 11 ま る。 C 5 民 月 月 外 3 登 と 4 か

国6録令

生情 名 問 美 図 の 増 書 加 館 C • あ 弁 る 天 苑 移

取 言 61 0 葉 民

現

状

0

5

る

大

変

な

え不ど

な

って

な

葉

の

壁

を

多行組

言 政

語 情

ょ

化 報

る活

生

 \equiv

語 に な

るコミ 援 周 の国 訳 支の を 通 本 援 語 実施 訳か翻市 玉 ユニケ 法 訳 ゃ C 語、 して に 翻外 の 行 つい 玉 事 って 訳 1 61 語、 の籍 業 通 シ 7 る。 支 住 は ョ 訳 しし 援民何る ンに 見ス子 答トやン問設天6 を $\wedge^{\!\!\!\circ}$ سّل の利テ 1 も 内 用 1 1) 天 読 者へのの書 ただ スに 書 容 の ゃ エの 61 結 対 IJ 推 $\overline{\zeta}$ 果 するご ア 聞館 ア、 進 は 61 ンきの 活 る 閱 ケ取ボ 動 意 覧 1りラ

問所医施役を対ト答のへか通問支よ活報答るのてよ言住測松問 9 設所 応ナ レム中知方 配 か て語 学 い等る9 語 る。 C 内 1 幼 作 か 英 稚 \mathcal{O} 0 チ国 戍 ラ語 公 0 0 遠 力 共市シにベ トも新 名答の期 1 問 内 間 U 容につい ط ア ン 2 容 本 設 集 週 は、 ケ の 約 間 1 す 充 枚 C abla実 、 数 **、** 1 1 \subset 書 の 5 館 実 目 子 ے 意 的ど を 9 見 施

育て世 助を求めます 代 への



平野 大阪維新の会



上雜 が続 ま ル を 下 げ る I 夫」 を 求 80

用 教 す \equiv にできて る ٢ い 本 給 の 育 り る 年 \mathcal{O} \mathcal{O} に 度 給 に を 無 C 食 償 か 以 必 子 と」と、「 化 か 跭 無 つ 率 化 ない も る 償 な $\overline{}$ $\overline{}$ 全て 子育 を 継 化 世 お か 求 続 代 を 金 5 めの 義 実 令 を $\overline{}$ がら うにす る 談 場 間 任 全 常に が、 違 て し 合 の \subset 申 い は 保 護 ほ な 請 教 準 () U 育 内 だと 相 者 () 委 その の にとって 高 61 す 会 よう え え る に よは

を策

高齡

ŧ

迎原

設

の デ 配 ジ 慮も タル 必 化 要 齡

者

っ 3

ケ

す。

は

情 確 子 す 勢 保同育 を等時て 見行に支 極い新援 めなたに ながなつ がら税い よを問あなより デ ジ つ つ利 つ ンター $\overline{}$ て $\overline{}$ 用 ジ は ル し誰能 なりませ 化 ま か カ の うが ゃ 推 も不年 進 h_{\circ} の便齢に でにによ

問 ま め ま で て 的 教 給 は ● ら社収て答ま費務施和問手すゆな 低す 就 判会の 学 断 ぎ援 助 の 認 定 基 準

デ

ル

み

もれ恩

進る恵

食 の す 支はに 育 所が援 費 費 木 を し 就 難 の 基支て学 な 支含る 準援い援 家払む がさ る助庭い学 低れと制にが校 する 言度対経へ ぎたいしし済の 享等民を 署 め う \mathcal{O} 進 C <全 < に < め 行 市 だ 行 る 政 設 す 民 がと る がタ のさ ے よサ 従 デれ 取 受 け化らの も ジる 来 組

松原市公共施設 の

野口



策 **`** コロナの関係で 瀬て 帰 市 一 の 元 定 え 等 月 り人 は 総 τ い し 末 だ 数 徹 る 若 公 化 合 ま 底 け 制 者 子 ク 共 C 中 限し IJ 合 \overline{C} τ 休 もをた エ お 的 設 館 ١ な 公 開 行 感 \overline{C} 少原社 の IJ た え染 に 来 館 - \subset 筃 検 答の ۲ 情 る い所 • ように行っ 1 報 を 能 に ツ 等 る。 Δ 松 の 修 発信に努めて 今 加 に 道 | C の 夢 早繕 後 え 男 < 等 活 定 遊 南 館 も 期 を abla女な を用 管 具の点検は 発 チ S 行 運 共 1 $\overline{}$ 理 ヤ 見 い Ν 用 同 センは いる 者 S 等 レンジ に T \cup い て、 が 点 危 努 画 义 义 か め険 تلے でい機書書フ れ歴

原

を

運

こと も 業 とが、多 答はば対月な年問理松 今 年 3 を 多 可日 な 大が大能で 閉 末ま け が 館 あ 計 き施 人 1 予 な り、 は て な 設 数 画 C しり な 利 寸 を C の 閉 た 11 ュ 用 第 体あ 寸 U れる 館 め か ١ 者 2 て は る 体 する に 内 に 波 61 事 \subset 利 も ф 迷 る の 前と用 <u>_</u> 発 を と史設内 答 を史問 街道 生か 展 進 ٢ 的 置 人 ズ さ め も な を が 市 ま \subset に こ 利 と し 区原 は作 つ に せ 民 た 有 い 域 っぱ 沿 る の じ に き た 用のめ た 5 つ 財 た あ 効 ح ا ま た 80 産 者ア 案 り、そ 活 内 に のピ ち 維 を 用 たた

拡 1

の

を

板

大ル歴の案

相 行 うべ ゃ \wedge 保 の 育 の \mathcal{O} な 理 す市 い民 施の 設 皆 $\overline{\zeta}$ ۲ 様 な が る利 よ用

答い違難事

 $\overline{}$

が

は

地

0

進

め

7

いきた

直

避 本 難 0

難

が非難

が

市

は

水

abla

ツ

ブ

を

市

垂

避

<お

い

伝えし、

のです。の所管に関する事項について質問するも委員会協議会とは、委員が各常任委員会

災害時避難について小川・若林の











さ対 学鷲た水ド問 象と 校 北 想 $\overline{\mathsf{v}}$ に ر 定 プ な 変 学 区 る 更 校 域 が 地 に から高鷲 改 , 見 直 なる 域 に 所 さ ハ 事 れザ 知 の さ 5 が ф 高 n 浸 行うよう記載をしている。 情 لے が 報 生 異 早 C を す な 水 き、 害時、 期 得ることで、 る り の の 水命 か 逃げ遅 を守る つ ど $\overline{\Psi}$ を 避 事 難 前 をれ を

ころで記 らず、 は、 ップの そ ようか? 市 お 前 内の 地 域の 今後、 更 載 の てハザー 新がされ をして 避 改 も 難 訂 さん 更 新 所 の 曳 い \mathcal{O} 際 に 時 $\overline{}$ ۲ 野 た ٢ に ま ず 河 対 民 れ ち 示 心心を るこ に の す つかん 方 市 気に べきでは 松 図っていく。 々 Ш ط 民 原市域内に内水 はな に安全な の 降っても、 の 状 況 だ 命 時点 い が な ?脅かさ を の い 把握 で、 か? 避 C 市 直 難

平

野

委員

(福祉文教

が、

に

にお

 \forall 市 は、

C

れて

の

は

な

ぜ

を

想

定

そ の 指

針

河内

徹

委員

(福祉文教

きたいと考える。 ×となって ×とされて 7 みると水 のハザー 亚 難 周知を 避 0 危 ے 亚 义 が い 0 い 険 勘 避 る 垂 る な 避 ۲ つ かや い長 昨 感 当 た たの うてきたし今後も 全 の 意 年 じ 61 課 要 まちづくり た の 望 川 つい か 見 出した回 書につい 川町会が提 月 と小 が 議 ₹ ` 会 つい の 市 や安 一答が心 いとして さ 澤 町 ζ, 井市 て、 会 出 n 1/J が 担し

福嶋 光広

委員

(福祉文教)

依田

眞美子

委員

(総務建設

▽軽自動車税につい

曲 人 委員 (福祉文教 ▽介護保険制度につい

後期高齢者医療制度につい

て

篠本

雄嗣

委員

(総務建設)

▽本市の地球温暖化対策

▽国民健康保険料について

∀ G I GAスクー ル について



ゼ

ロカー

ボンシティ~につい

て

 ∇ `新たな高齢者施策について



> 令和3年度組織機構改革について

*個別施設計画について

三重松

清子

員

(総務建設

 ∇ ·幼稚園、 におけるコロナウイルス感染症等 保育園等及び小中学校



対策について



祉文教

森田

夏江

員

(福

次回の予定

令和3年第1回定例会

3月1日(月) 本会議 (初日)

8日 (月) 代表質問 9日(火) 代表質問

10日 (水) 個人質問 11日 (木) 個人質問

12日 (金) 予算特別委員会

15日 (月) 16日 (火) 予算特別委員会

18日 (木) 予算特別委員会 22日 (月) 福祉文教委員会

23日 (火) 総務建設委員会 26日 (金) 本会議 (最終日)

予算特別委員会









植松

栄次

委員

(総務建設)

▽ぐるりん号の今後の運行等について

>普通財産 旧松原図書館跡地等 の

利用について

 ∇ ∇ ∇

図書館分館

・読書の森

基本的人権である図書館の役割

岶

:図書館跡地問題

